

## ダム事業

### 再評価原案準備書

#### 1 雨竜川ダム再生事業

令和5年度  
北海道開発局

事業名 (箇所名)	雨竜川ダム再生事業		担当課 担当課長名	水管理・国土保全局治水課 林 正道	事業 主体	北海道開発局				
実施箇所	北海道雨竜郡幌加内町				評価 年度	令和5年度				
該当基準	社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業									
主な事業の諸 元	雨竜第1ダム:容量振替 雨竜第2ダム:容量振替、重力式コンクリートダム(同軸嵩上げ) ダム高約39.5m(嵩上げ高約3.8m) 堤頂長230.0m 総貯水容量約24,100千m <sup>3</sup> 有効貯水容量約13,900千m <sup>3</sup>									
事業期間	事業採択	平成30年度	完了	令和15年度						
総事業費 (億円)	約449		残事業費 (億円)	約328						
目的・必要性	<p>&lt;解決すべき課題・背景&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>戦後の主な洪水は、これまで昭和30年7月、昭和56年8月、昭和63年8月があり、近年では平成26年8月洪水で幌加内町市街地上流で計画高水位を超過し、家屋や農地の浸水が発生している。</li> <li>昭和30年7月(低気圧・前線) 床上浸水1,179戸、床下浸水926戸</li> <li>昭和48年8月(台風・豪雨) 床下浸水12戸</li> <li>昭和50年8月(台風・豪雨) 床上浸水37戸、床下浸水309戸</li> <li>昭和56年8月(低気圧・前線・台風) 床上浸水130戸、床下浸水438戸</li> <li>昭和63年8月(停滞性前線) 床上浸水186戸、床下浸水493戸</li> <li>平成26年8月(低気圧・前線・台風) 床上浸水11戸</li> <li>平成30年6月(前線・低気圧) 床下浸水5戸</li> </ul> <p>&lt;達成すべき目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>洪水調節</li> </ul> <p>&lt;政策体系上の位置付け&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>政策目標:水害等災害による被害の軽減</li> <li>施策目標:水害・土砂災害の防止・減災の推進する</li> </ul>									
便益の主な根拠	洪水調節に係る便益: 年平均浸水軽減戸数:13戸 年平均浸水軽減面積:105ha									
事業全体の投資 効率性	基準年度		令和5年度							
	B:総便益 (億円)	635	C:総費用(億円)	390	B/C	1.6	B-C	245	EIRR (%)	6.4
残事業の投資 効率性	B:総便益 (億円)	635	C:総費用(億円)	276	継続B/C	2.3				
感度分析	事業全体のB/C 残事業のB/C									
	残事業費	(+10% ~ -10%)	(1.5~1.7)	(2.1~2.5)						
	残工期	(+10% ~ -10%)	(1.6~1.7)	(2.3~2.3)						
	資産	(-10% ~ +10%)	(1.5~1.8)	(2.1~2.5)						
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>洪水調節:雨竜川の基準地点雨竜橋において、河川整備計画の目標流量2,400m<sup>3</sup>/sのうち100m<sup>3</sup>/sを調節し、河道への配分流量を2,300m<sup>3</sup>/sとする。</li> <li>河川整備計画目標規模の洪水が発生した場合、雨竜川流域では、最大孤立者数(避難率0%)は約840人と想定されますが、事業実施により約490人に軽減される。</li> </ul>									
社会経済情勢 等の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>氾濫のおそれがある区域を含む市町の総人口、総世帯数は、平成30年から令和4年にかけてやや減少している。</li> <li>水田及び畑の面積は平成30年から令和4年にかけてほぼ横ばいで大きな変化はない。</li> </ul>									
主な事業の 進捗状況	<p>平成16年 6月 石狩川水系河川整備基本方針策定</p> <p>平成19年 5月 石狩川水系雨竜川河川整備計画策定</p> <p>平成29年 7月 石狩川水系雨竜川河川整備計画変更</p> <p>平成29年 8月 雨竜川ダム再生事業新規事業採択(実施計画調査)</p> <p>平成30年 4月 実施計画調査着手</p> <p>平成 4年 8月 石狩川水系雨竜川河川整備計画変更</p> <p>令和 4年 8月 雨竜川ダム再生事業新規事業採択(建設)</p> <p>令和 5年 4月 建設事業着手</p>									
主な事業の 進捗の見込み	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度に雨竜第1、第2ダムを管理する発電事業者と、兼用工作物とするための基本協定を締結し、工事用道路に着手する。</li> <li>今後、本体工事に着手し、発電事業者の協力のもと事業の進捗を図り、令和15年度の事業完了に向けて事業を進める。</li> </ul>									
コスト削減や 代替案立案等 の可能性	<p>&lt;コスト削減&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学識経験者等で構成する「札幌開発建設部ダム事業費等監理委員会」において、各年度の予算と事業内容、コスト削減策などについて意見をいただいている。本体工事等においては、施工時に工法の工夫や新技術の積極的な採用によりコスト削減に努める。</li> </ul> <p>&lt;代替案立案&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度に実施した新規事業採択時評価(建設)においては、「洪水調節」をダム再生案(雨竜川ダム再生事業)とそれ以外の代替案を複数評価している。その結果、総合的な評価としては、コストや時間的な観点から見た実現性等の面の評価軸から、ダム再生案(雨竜川ダム再生事業)が優位と評価しており、現時点においてもコスト面での優位性に変化は無く、総合的な評価結果には影響を与えないことを確認している。</li> </ul>									
対応方針	継続									
対応方針理由	事業の必要性・重要性に変化はなく、費用対効果等の投資効果も確保されていることから、事業を継続する。									
その他	<p>&lt;第三者委員会の意見・反映内容&gt;</p> <p>&lt;都道府県の意見・反映内容&gt;</p> <p>雨竜川ダム再生事業については、「継続」とした対応方針(原案)案について、異議はありません。</p> <p>本事業は、度重なる雨竜川流域の洪水被害に対し、重要な治水対策と認識しており、治水効果の早期発現に向け、着実に事業を推進していただきたい。</p> <p>なお、事業の推進に当たっては、適切な事業管理を図り適時情報提供を行うとともに、関係機関との協議、環境保全の措置を実施されたい。</p>									